

The Reminiscence of Exellia NG+1

クロニクルクエスト「Rekindled Embers」 Vol.2「時が吹き溜まる場所」

作成レギュレーション

基本概要

- ・ 経験点：146500 点
- ・ 資金：282000G
- ・ 名誉点：1810 点
- ・ 成長回数：282 回
- ・ レベル制限：13
- ・ アイテムレベル制限：武器ランク S 以上／防具ランク S 以上
- ・ ステータスリミット：各項目ボーナス 15（+増強増分 2）まで

制限事項

- ・ ヴァグランツ／蛮族 PC 禁止
- ・ SW2.0／2.5 標準流派入門・使用禁止
- ・ 武器防具強化に関する特殊制限
- ・ シナリオ報酬の成長回数が 10 以上の時、その 6 割の偏重割り振りの禁止
- ・ 戦利品判定は振ってくれ。

その他注意事項

・ 制限を逸脱した成長を行った PC は、レベルシンクが行われます。レベルの上限を突破した成長を行った場合、レベルが下限に合わせられます。

ステータスリミットの制約を無視した成長を行っていた場合、成長の振り直しが行われます。このとき、キャラクターシートのデータは振り直し後のものになります。

・ 成長回数の制約を逸脱した成長を行っていたキャラクターシートが見られた場合、このキャンペーンは強制的に終了します。

導入

君達は、大広間でくつろいでいた。

(※GMメモ：RP待機(長め))

そこへ、エクセリアが訪れる。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「…ここまでの調査で、あの泡沫世界は、未だ消失していないことが分かった。
その証拠に、あれ…。エーテライトから、あの世界の気配を感じるんだ」

エクセリアはそう言って、エーテライトを調べる。
やはり、君達の感覚でも、あの束縛された世界の気配を感じ取れるだろう。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「これより至るは、終わりに向かう世界。準備ができたら行くぞ。最果ての地、『吹き溜まり』に…！」

君達は、準備を整える必要性がありそうだ。

時の彼方へ ～泡沫世界 『終滅世界』ロスリック～

基本原則

この世界にはカルディアのマナはなく、その代わりに集中力（FP）で魔法を構成します。

その性質上、この世界では普段と同じ方法で通常の魔法を使用できず、練技なども使用できません。ただし、魔法については、指定された消費 MP の 3 倍と同じ FP を消費することで、魔法を行使することができます。

例外として、特殊神聖魔法は一切使用できません。

FP は MP と同値のリソースですが、MP を自動回復する効果や、『ルーシッドドリーム』などの回復手段で回復することはできません。その代わり、ラウンドの終了時に最大 FP の 5% ぶんだけ回復します。

「吹き溜まり」特殊裁定

特にプレイフィールドに影響を与える裁定はありません。

現出した場所

君達が、エクセリアに誘われるままに降り立った場所は、土のレンガで築かれた塔の残骸のようなところだった。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリアが、君達を呼んでいる。

エクセリア

「飛び降りろ。死にはしない」

彼女が示した『崖下』は、その落下高度からして『100メートルでは済まない』高さだった。エクセリアはしばらく考えた後に、君達の背後に回り込む。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「覚悟を決めろ。なぁに、私もすぐに……………追いつく！」

君達を、エクセリアが蹴飛ばした。

(※GMメモ：RP待機)

受け身判定は不要で、落下ダメージはありません。

君達が丁度よく、灰が積もった場所に降り立つと、そこには嫌に増えた、異形がいた。その異形たちの上には、虚空に向かって拘束された、足のない巨人がいた。

(※GMメモ：RP待機)

???? (篝火世界標準語)

『火のない灰め…ティフォンを封じたか。贄ごときが小癪な真似をする。だが——』

(※GMメモ：RP待機)

その巨人が、胸に刺された槍を引き抜こうとする。

(※GMメモ：RP待機)

引き抜こうとして、赤雷がそれを阻む。それを知ってか、異形の声が再び空間に響き渡る。

(※GMメモ：BGM「'Neath the Pall」)

????

『汝の力を見せてみよ』

敵：デーモンの王子×6、N-WGIX/v×2

(※GMメモ：RP待機)

君達は、魔物の群れを退けた。

だが何か変だ。未だ何かが起こる予感がする。

再び巨人が、槍を引き抜こうとする。その最中に、青白い魔弾が放たれ、地に落ちていく。精度は低く、銭湯に差し支えない範囲に落ちていく。

敵：デーモンの王子×4、Lady in Vortex×2

敵を退けると同時に、異形が目からレーザーを放つ。

回避力判定 目標値：25

失敗時、「対象の最大 HP の 9 割」点の変動無効属性確定ダメージを受ける。

(※GMメモ：RP待機)

巨人が、槍を引き抜く。

その歓びから槍を破壊し、己の力と成す。

(※GMメモ：RP待機
BGM「Hamartia」)

エクセリア

『下がれ！そいつの相手はわたしがする…！』

衝撃波が奔る。

放たれたレーザーを無効化するように、君達の前にコズミック・クェーサー・リズンが現れる。

この戦闘では「コズミック・クェーサー・リズン」を操作します。

敵：ティフォン

コズミック・クェーサー・リズンが、ティフォンを討ち払った。

エクセリア

『やったか…！』

????

『まだだ…まだ終わらぬ…。更なる力を解放せよ』

今まで、君達が倒してきた…デーモンの王子たちが蘇生する。

苛立ちを見せるコズミック・クェーサーは、眼前に捉える悪鬼に対して殴りかかる。

(※GMメモ：RP待機)

殴った対象が霧散し、その霧が一点に集まっていく。

その先には、先ほどの足なし異形が立っていた。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

『なに！？』

異形が光を放つ。

(※GMメモ：BGM「Catacecaumene」)

そして変化した異形は、N-WGIX/vを基軸に、デーモンの王子を織り交ぜた、名状しがたいものだった。

この戦闘では「コズミック・キューサー・リズン」を操作します。

敵：フェイラー・ヤマンソ

フェイラー・ヤマンソが吹っ飛んでいく。

しかし、フェイラー・ヤマンソは体勢を即座に立て直し、転移してコズミック・キューサーの背後に回り込む。

殴りかかる攻撃を、コズミック・キューサーは軽く躲してみせる。フェイラー・ヤマンソの体躯を利用してうまく跳躍したコズミック・キューサーを、フェイラー・ヤマンソは炎のビームで狙撃する。

(※GMメモ：RP待機)

しかしそれを、コズミック・キューサーは炎の球で迎撃する。

爆焰に紛れて敵の背後に回り込んだコズミック・キューサーは、一度咆哮すると、両手に魔力を集中させる。

——コズミック・キューサー・リズンは「地獄の火炎」の構え。

隙だらけになったコズミック・キューサーを、再びフェイラー・ヤマンソが狙撃する。

それを跳躍して回避したコズミック・キューサー・リズンだったが、今度は叩きつけられ、詠唱を強制的に打ち切られる。地に伏したコズミック・キューサーを、フェイラー・ヤマンソは魔弾を乱射して滅多打ちにする。

(※GMメモ：RP待機)

グミ撃ちは負けフラグ、とはよく言ったものだ。

コズミック・キューサーは既に、フェイラー・ヤマンソの背後に。

エクセリア

『オオオオオオオオ！！』

——コズミック・キューサー・リズンの「シャドウブリンガー」

フェイラー・ヤマンソの土手っ腹で、漆黒の闇が炸裂した。

FAILURE YOMAGN'THO VANQUISHED

されど『神』は『王』を睨む

エクセリアが顕現を解き、君達の前に降り立つ。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「…視られているな」

一言、エクセリアが何かを察知したかのように言う。

その瞬間、空間に高笑いが木霊する。

????

「ハッハッハッハッハ、流石は、我が息子の血族。その中でも特異な、光を宿せし最後の薪の王よ。その様子だと、未来を勝ち得たようだな」

大いなる存在の気配を、君達も察知する。

そうして、雷の如き光が地に降りると同時に、老王の姿が現れる。

薪の王

「久しいな、最後の薪の王。これからどこへ行くつもりだ？

…っと、お前達に名乗らねばな」

そう言って、彼はしばし思案する。

(※GMメモ：RP待機)

グウィン

「我が名はグウィン！言うなれば全ての元凶だ！ハハハハハ！」

PC への選択肢

- ・ オイィィィィィィィィィ！？
- ・ クボ？

君達の反応を見て、グウィンは高らかに笑うだろう。

…エクセリアからの視線が痛く感じもする。

(※GMメモ：RP待機)

生命抵抗力判定 目標値：33

失敗時、グウィンが城之内の如き顎を見せびらかしているように見えてしまう。

グウィンに対する行動判定に-4 のペナルティ修正を受ける。

(※GMメモ：RP待機)

君達は、思わぬ来客に驚き、ある者は尖ったような神の顔を見て吹き出すだろう。

グウィン

「さて…訊かせてもらおうか、終極にして最高の薪の王よ。あの姿について」

その言葉を聞いて、エクセリアは黙り込む。

(※GMメモ：RP待機)

君達の言葉を聞いても、エクセリアは『事実を公開したときの弊害』を考えて躊躇うように、『召喚獣コズミック・キューサー』の存在を秘してしまう。

エクセリアにとって、かけがえのない存在なのだろう。

グウィンから、羨望という名の底知れぬ悪意を、エクセリアは感じ取っていた。

グウィン

「もしや、儂を前にして、何も言えぬと？」

エクセリア

「……………」

エクセリアの眼が、青く光った。

(※GMメモ：RP待機)

瞬間、エクセリアとグウィンが激突する。

グウィン

「シース魂の武器を、斯様な刀に鍛え直すとはな。鍛冶師の貌を見てやりたいわ！」

エクセリア

「お前に、『こいつ』の真髄は明かせない！だから、私はこの炎でお前に立ち向かう！」

飛び退き、エクセリアは刀をしまう。眼前に魔法障壁を展開し、破滅の言の葉を紡ぎ始める。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「誘拐を切り離す鎖錠を破り、無窮の炎となりて顕現せよ！」

エクセリアが轟、と炎に包まれ、半顕現に似た残り火を纏った姿に変化する。

抜刀し、構えたあたりで、周囲に火の粉が舞い散る。

グウィン

「ほう…。篡奪したはじまりの火を、そのように使ってみせるとは。火継ぎを終わらせる
ついでに得た力がそれか」

エクセリア

「お前は…ここで終わらせる」

敵：太陽の光の王グウィン

君達は、太陽の光の王グウィンを討ち払った。

(※GMメモ：RP待機)

グウィン

「フッ、まさかこの程度の存在に追いつかれるとは。今人というのは、斯くも…」

(※GMメモ：RP待機)

グウィンは君達の力を受け、凄まじい『圧』を感じているようだ。

グウィン

「だが…我が理を打ち砕いた者は捨て置けない。最後の薪の王よ…彼らにはその根底に悪意がある。導き出した人の意志は、昏き闇に吞まれうる脆弱なものだ」

(※GMメモ：RP待機)

グウィン

「だがもし、人が悪意を認め、功罪を受け入れ、他社と共に高みに挑むことがあるのならば…その呪いも、いずれ解かれることになるだろう。

その火の封は、貴様に預けておく。お前達の活躍次第で、その封は解かれるだろう。

さらばだ、遥か未来の英雄。お前達の活躍が…最後の薪の王を救うことを、切に願う」

そう言って、グウィンは消失するだろう。

…エクセリアの足元に、雷が槍状に姿を変えたものが転がった。

(※GMメモ：RP待機)

それを、エクセリアが拾う。するとどうということだろう、空間に警報音が鳴り響いた。

謎の警報音

『警告。楽園防衛プロトコルに支障が発生。最終防衛ラインに転送を実施』

その瞬間…君達はエーテル酔いにも似た感覚と共に、意識を喪失することになる。
事態はまだ、終わっていないようだ。

報酬

経験点

- ・ 基本：1500 点

資金

このシナリオに資金報酬はありません。

名誉点

- ・ 基本：10 点

その他報酬

- ・ マジテックトームストーン〔戦記〕：100 個
- ・ マジテックトームストーン〔詩学〕：25 個
- ・ 光る楔石：16 個
- ・ 楔石の鱗：16 個

——《最果て》にて

最果てにて、赤ずきんの老人はひたすらにその身のうちに力を溜め込んでいた。
すべては、お嬢様の願いを叶えるために。